

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025 年 3 月 13 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町3-2-6 麹町本多ビル3B

評価機関名 一般社団法人日本福祉サービス評価機構

認証評価機関番号

機構 02 - 033

電話番号 03-3262-2260

代表者氏名 代表理事 太田 吉泰

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号	
	①	太田 吉泰	経営	H0301059	
	②	植村 義秀	福祉	H1801080	
	③	川畑 俊一	福祉	H2301081	
	④				
	⑤				
	⑥				
福祉サービス種別	障害者支援施設				
	☒ 生活介護				
	☐ 自立訓練(機能訓練)				
	☐ 自立訓練(生活訓練)				
	☐ 就労移行支援				
	☐ 就労継続支援(A型)				
	☐ 就労継続支援(B型)				
☒ 施設入所支援					
評価対象事業所名称	友愛学園成人部			指定番号	1312800046
事業所連絡先	〒	198-0001			
	所在地	東京都青梅市成木2-130-2			
	TEL	0428-74-4192			
事業所代表者氏名	施設長 渡部 光行				
契約日	2024 年 6 月 13 日				
利用者調査票配付日(実施日)	2024 年 9 月 3 日				
利用者調査結果報告日	2024 年 10 月 31 日				
自己評価の調査票配付日	2024 年 8 月 27 日				
自己評価結果報告日	2024 年 10 月 31 日				
訪問調査日	2024 年 11 月 15 日				
評価合議日	2024 年 12 月 20 日				
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は事業所内で、聞き取り方式で実施しました。職員には、説明会を開いて、評価の意義や評価手法について説明して実施しました。				

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
○ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
○ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2025 年 3 月 10 日

事業者代表者氏名

施設長 渡部 光行

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1)利用者の一人一人をかけがえのない存在として大切にし、利用者の個性、主体性、可能性を尊ぶ 2)いかなる差別、虐待、人権侵害も行わない 3)個別性を尊重した支援に取り組む 4)より良い生活環境を心がける 5)QOLを念頭においた支援の実践を行う
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上） （1）職員に求めている人材像や役割 ①利用者の願いや思いに耳を傾け、その実現に向けて真摯に取り組む姿勢を持ち職務に従事する人材 ②利用者の望む生活の実現のため、自身の知識や経験を深め、自己研鑽する人材 ③利用者支援や、社会貢献などのソーシャルアクションを通じ、職務職責を楽しむことができる人材 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） ①利用者の思いや希望に共感し、その実現に向けて全力で取り組む姿勢を期待する ②自身の行動や支援が、利用者の生活の質、幸福度に繋がることを理解し、内省を持って日々支援を行う姿勢を期待する

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-2	利用者が主体性を持って、充実した時間を過ごせる場になるような取り組みを行っている
タイトル①	利用者のニーズ・要望に沿った活動を行い充実した時間を過ごせるよう取り組んでいます	
内容①	利用者一人ひとりが「熱中できる時間を持ち、その人らしく過ごせる」よう多種多様な活動メニューを設け、全職員で全利用者を支えるという考え方で支援しています。日中活動は工房での創作活動（絵画、和紙、木工、刺繍、染・織物他）や音楽活動、運動、リラクゼーション、理学療法、散歩等から利用者の障害特性やニーズ・要望に合わせて活動を組み、個別の週間プログラムを作成して支援しています。また余暇支援も利用者の希望に沿った特別余暇（誕生日余暇、元気余暇）の日などを設け、利用者一人ひとりの思いを大切にしたい支援に取り組んでいます。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル②	リスクマネジメント委員会を中心に職員全員で利用者事故の防止に取り組んでいます	
内容②	利用者事故防止について職員全員で考え、支援面・設備面の両面から事故防止対策に取り組んでいます。昨年度利用者が左足小指先を切断する事故が起きました。事故検証の結果、設備面の問題とそれに対する職員間の意識共有、危機管理意識の不足等、複数の要因が重なっていました。このことを受け、リスクマネジメント委員会が中心になってヒヤリハットや事故の事例分析、見守りカメラを活用した検証を行い、事故防止に向けた支援面の見直し、設備面等環境改善を行っています。また支援マニュアルの見直しや危機管理意識の醸成にも取り組んでいます。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-5	利用者が地域社会の一員として生活するための支援を行っている
タイトル③	「違いを認め合う共生社会の実現・障害のある人の魅力発信」に取り組んでいます	
内容③	利用者の創作活動や作品を広く社会に紹介する取り組みを行っています。「違いを認め合う共生社会の実現、障害のある人の魅力発信」を目的として、作品展の開催やタブロイド紙の発行、HP内の「YUAI PLUS」で作品展の案内や作品の紹介、利用者の思いなどを掲載しています。利用者の活動や作品は作品展や公募展に出品・入選したり、TVの取材・紹介、プロの芸術家との企画展に参加するほか、市内の運輸会社のEV車2台のラッピングに利用者の絵が描かれるなど、利用者の創作活動を通じて多くの人たちと繋がる事ができています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	幅広い年齢層や自閉症・行動障害等、多様な利用者のニーズに応えられるよう、支援員、看護師他各専門職が連携して支援を行っています
	内容	10代～70代の利用者61名が生活し、高齢化に伴う重度化や機能低下、自閉症・行動障害等、利用者の多様なニーズに即した支援が行えるよう取り組んでいます。利用者は介護度や障害特性、生活上のリスク等に応じて9のユニットで生活し、施設入所支援職員は日中活動職員、看護師、OT・PT・ST、栄養士等と連携して、個々の利用者の支援方法や内容等を検討し支援しています。また転倒・骨折等の事故、他害やトラブル等の把握・検証が行えるよう見守りカメラを設置し、利用者の生活面のリスク管理を行う等ICT化も進めています。
2	タイトル	利用者が健康で長く生活し続けられるよう、作業療法士等専門職と連携して高齢に伴う機能低下や障害の変化に対応した支援を行っています
	内容	50歳以上の利用者が半数を越え、60歳以上も18名と約30%になり、利用者の機能低下・重度化が進んでいます。そのため常勤の作業療法士が個々の利用者のリハビリ計画を立て、PT、看護師、支援員と連携して、リハビリやトレーニングを行い、またSTと連携して摂食嚥下機能の状態に応じた食事支援を行っています。利用者の状況に合わせた活動時間や内容を検討し、スヌーズレンなどのリラクゼーションや音楽療法士等による音楽活動なども行っています。医療的ニーズの高くなった利用者も多く、嘱託医や協力医療機関との連携を密にしています。
3	タイトル	創作活動の中で利用者が真剣に取り組めること・得意なことを見い出し、それぞれの利用者が独特の作品を作り上げています
	内容	施設内の工房で絵画、和紙、木工、刺繍、陶磁、草木染、藍染、織物、布地などの創作活動が行われ、利用者がみな一生懸命取り組んでいます。その活動(創作)が最初から得意な利用者だけでなく、職員が利用者と一緒に関わりながら、その利用者が真剣に取り組めること・得意なことを見い出し、その取り組みが作品になるよう関わっていることが感じられます。創作活動を行っている利用者の姿・表情から、その活動の中に自分を見出し、興味、関心と感性を自分の手と頭に集中させ、独特の作品を作り上げていることがどの作品からも強く感じられます。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	成人部建替え計画延期に伴う中・長期計画を再検討すると共に、老朽化した設備の更新・修繕、環境整備も継続していかれるよう望みます
	内容	成人部建替えが10年程度延期となり中・長期計画の見直しが必要となりました。それに伴い、現在の施設整備を見直し、利用者が安心・安全・快適に生活し、職員の負担軽減を図るため、老朽化した設備の更新・修繕や高齢化対応等の施設整備・環境整備を緊急課題として実施しています。また、建替えを含めた成人部の将来的な展望や見通しを中・長期計画で示していくことは職員にとっても重要だと思われます。法人経営会議での中・長期計画の再検討と共に成人部内でも議論しながら、引き続き必要な施設整備・環境整備に取り組んでいかれるよう望みます。
2	タイトル	専門学校・短大・大学等への訪問・説明会を積極的に行うなど職員募集方法を検討し、若手人材採用に向けた新たな取り組みが望めます
	内容	人材斡旋会社を通じたセカンドキャリアの採用が多く、職員年齢層に偏りが生じているようです。実習生が就職を希望し採用する場合がありますが少なく、将来的な人材育成をふまえ若手職員の採用を課題としています。障害者福祉への就職希望者が少ない中、若手人材の採用は難しい課題になっていますが、専門学校や短大・大学等への訪問、採用説明会の開催等で法人の考え方や障害者福祉について積極的に伝える等、採用方法の再検討、また給与体系の再検討やセカンドキャリアの処遇改善など、採用・育成に向けた新たな取り組みを検討されるよう望みます。
3	タイトル	目標支援や育成面談の活用、職員間のコミュニケーションをより活発にする等、支援力向上を図る取り組みを強化していくことが望めます
	内容	人事評価制度による人材育成を行い、職員間のコミュニケーション・支援力向上を図るため、職員の気づきや工夫について提案・検討する場を設けています。一方、キャリアパスや育成について一般層職員の理解が十分ではない面が職員の自己評価から伺われます。また、現場レベルでの工夫・支援検討など自らが考え動くチーム作り等「考えて行動に移せる職員の育成」を図りたいと考えています。目標支援シートや育成面談の活用、職員間のコミュニケーションをより活発にする方法や意識を強化する等、引き続き人材育成に取り組んでいくことが望めます。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-6	地域で自立した生活を送れるよう支援をしている
タイトル①	地域生活を支える社会資源として、幅広いニーズに応えられるよう取り組んでいます	
内容①	定員は1名ですが、利用者の地域生活の継続を念頭に、幅広いニーズに応えられるよう取り組んでいます。家族・介護者の休養や病気、旅行・冠婚葬祭時等の利用や体験的利用も受け入れ、緊急一時入所にも対応しています。要望には可能な限り対応し、入・退所時間等も固定せず、家族の都合に合わせられるようにしています。入浴時間や就寝時間、早期の作業所への通所などの要望に可能な限り応じ、在宅時の生活をふまえた支援を行うよう取り組んでいます。また他の福祉サービスとの併用にも柔軟に対応し、繰り返し利用する利用者も多くいます。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-2	利用者の主体性を尊重し、利用中の生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている
タイトル②	希望に応じて成人部の生活介護サービスを利用した日中活動が行えるようにしています	
内容②	生活介護サービスの支給決定如何にかかわらず、希望に応じて成人部の生活介護(日中活動)サービスを利用できるようにしています。成人部の日中活動は、成人部利用者の多様なニーズに応えることができるよう様々な活動を行っており、短期入所の利用者も好きなことや興味のあることを活動メニューから選んで行なえるようにしています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	広めの個室で落ち着いた環境で自分の好きな過ごし方ができ、できるだけふだんの生活に近い生活ができるよう配慮しています
	内容	居室(約10畳の個室)は介護系ユニットにあり、他の居室と少し離れており落ち着いた環境で好きな過ごし方ができるようになっています。個室にテレビやCDラジカセを備えています。短期入所担当職員を配置して対応し、家庭での生活の様子など詳しく聞き、ふだん使っている物や好きな物を持参してもらう等のほか、夜間入浴や就寝時間など、普段の生活に近い生活ができるよう配慮しています。繰り返し利用する利用者も多く、その都度生活の様子や変化などの情報や要望を確認し、職員間で共有して支援しています。
2	タイトル	利用者の希望・目的に応じて、他の福祉サービスとの併用ができるよう柔軟に対応し、在宅時の地域生活が継続できるよう支援しています
	内容	在宅時の地域生活が継続できるよう、利用者の要望に応じて他の福祉サービスとの併用ができるよう柔軟に対応し、利用中の日中活動事業所への通所や通所後利用、早朝通所等もできるよう配慮しています。利用者や家族の要望に応じて、将来の自立生活をふまえた体験入所的な利用も可能で、生活介護の支給の有無にかかわらず、成人部の日中活動に参加することもできるようにしています。家族の相談や状況に応じて、他の障害福祉サービスやサービス利用に関する仕組み等の情報を提供し、利用者・家族のニーズに添った支援が行えるよう留意しています。
3	タイトル	
	内容	
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	短期入所支援について日頃感じている課題の改善に向けた取り組みを継続し、よりよい短期入所支援を提供していけるよう望みます
	内容	短期入所担当職員を配置して家庭での様子など詳しく聞き、利用期間や頻度の少ない利用者も安定した状態で生活できるよう配慮しています。一方、現状の中でいくつか課題を感じています。例えば、利用期間が短いため利用者の思いや気持ちに十分配慮できないことがあるかもしれない、支援上の変更点等の情報共有が速やかにできないことがある、短期入所ということで家族が意見・要望等伝えにくいことも考えられ、メールの活用や話しやすい対応に留意したい、等を挙げています。これらの改善を図り、よりよい短期入所支援に取り組んでいけるよう望みます。
2	タイトル	施設建て替え時に短期入所の定員増を図る等、より多くの地域ニーズに応え、地域資源としての役割を強化していけるよう期待します
	内容	地域で生活する障害者や家族の短期入所に対するニーズは、緊急一時利用も含め高い状況があります。成人部としても短期入所事業は障害者の地域生活を継続するための重要な社会資源と位置づけて事業運営を行っています。しかし定員が1名のため、「地域資源としての役割を担うには弱さがあり、成人部の施設建て替え時には短期入所の定員を増やしたい」と考えています。成人部の建替えが延期になりましたが、引き続き居室数や配置・設備等のハード面や支援体制等を検討しながら、建替え時に定員を増やす計画が実現できるよう期待します。
3	タイトル	
	内容	